

2024 年に石川県白山市白峰の焼畑で火入れ後の熱い地面に潜る ツマグロキンバエの記録

中 田 勝 之^{*1}・ 八 神 徳 彦^{*1}・ 大 宮 正 也^{*2}

^{*1}石川県白山自然保護センター・^{*2}双翅目談話会

The record of *Stomorhina obsoleta* collected from fire burnt field, Shiramine Hakusan city Ishikawa prefecture, Japan, in 2024

Katsuyuki NAKATA^{*1}, Tokuhiko YAGAMI^{*1}, Masaya OHMIYA^{*2}

^{*1}Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa, ^{*2}The Dipterist's Club of Japan

緒言

焼畑とは、森林原野の樹木を伐採・火入れをして耕地化した後、ヒエやアワなどの雑穀類を栽培し、その後一定の休閑期間をおいて植生の回復を図り、再び焼畑に利用するという自然の再循環利用が特徴の農業である。かつて全国の多くの山村で盛んに行われてきた。石川県内では白山麓や大日川中流域の石川県小松市小原地区などの焼畑が知られている(石川県白山自然保護センター, 1994)。

さて、富樫 (1988) は、古くから焼畑で栽培された作物には昆虫の被害がほとんど認められないことに言及している。そのため、富樫 (1988)、富樫・高 (1992a, b, c)、富樫ほか (1992) において、小松市小原町地区と白山麓の焼畑で栽培された作物とそこに見られる昆虫類やクモ類調査及び飼育実験を行い、焼畑における天敵昆虫の多様さによる昆虫被害の少なさについて示唆している。

その後、焼畑における昆虫類の報告はないようで、2024 年に石川県白山市桑島地区で伝統文化の継承として実施された焼畑において、特異な行動を示すハエ目昆虫の 1 種のツマグロキンバエ (*Stomorhina obsoleta*) が見いだされ、それらを調査する機会を得たので、以下のとおり報告する。

なお、本種の生態については不明な点が多い。

調査方法

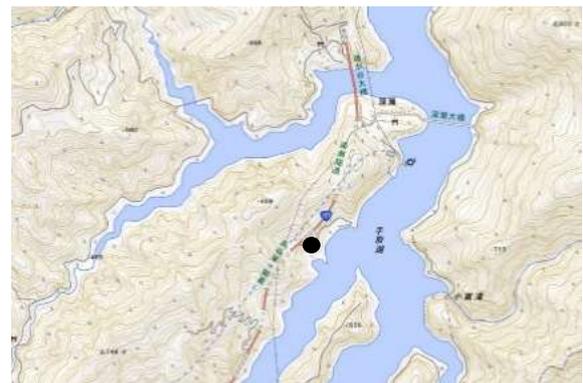


図 1 調査位置(国土地理院地図を加工し作成。)

2024 年 6 月 2 日、第 2 著者の八神ほか数人により、石川県白山市の桑島集落から約 5 km 離れた国道 157 号線沿い手取湖そばの桑島地内で実施された焼畑(図 1 の黒丸地点)で調査を行った。

採集記録

桑島地内焼畑で、播種前作業として火入れを行い(写真 1)、火が消えた後も熱さの残る地面付近を飛行し、さらに地面に潜る複数のハエ目昆虫を確認したので採集を行った。この行動は、焼畑を行う方々の間では、よく知られており、また掘り起こされた地面に飛来することもしばしば観察されている。

その後、第3著者の大宮が当該個体を検し、クロバエ科のツマグロキンバエと同定した。



写真1 火入れ作業後の焼畑の様子

考察

富樫(1988), 富樫・高(1992a, b, c), 富樫ほか(1992)の焼畑の昆虫相調査において、本種は報告されていないが、これらは火入れ作業等を終え、焼畑を農地として利用している段階での調査であり、火が消えた直後に現れる本種の活動時期と異なることがその要因ではないかと考えられる。

なお、石川県内の本種の分布について、徳本・佐伯(1998)は加賀市内から能登島の平地や山間部に広くみられることを記録している。また、本種を含むツマグロキンバエ属数種の幼虫が、海外ではアリの巣で生活する事が報告されており(Bharti et al., 2016; Nishijima, 1967), 日本でも同様の可能性が指摘されている(村山, 2007)。

今のところ、焼畑における本種の生態的役割は不明であるが、従来とは異なる時期の調査により貴重な行動を記録できたことから継続的に時期の異なる焼畑の昆虫相を調べることで、本種の活動時期を含め、種々の昆虫類の知られざる生態が明らかになるものと思われる。

Stomorhina obsoleta (Wiedemann, 1830)

ツマグロキンバエ (写真2)



写真2 ツマグロキンバエ ♀

2024年6月2日、石川県白山市桑島の焼畑地表付近より第2著者の八神が体長6.5mmの2個体のメスを採集。標本は大阪市立自然史博物館に保管。

謝辞

調査に協力いただいた石川県白山市の山口一男氏ほか白山自然ガイドボランティアの関係者及び焼畑の写真を提供いただいた石川県白山自然保護センターの有本紀子氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 石川県白山自然保護センター 編(1994) 白山地域焼畑調査報告書. 石川県白山自然保護センタープロジェクト報告書, 96pp.
- 富樫一次(1988) 焼畑の昆虫相とクモ相. 石川県農業短期大学研究報告, (18):24-33.
- 富樫一次・高順一郎(1992a) 焼畑の節足動物相(第1報) — ダイコン畑の昆虫相とクモ相 —. 石川県農業短期大学研究報告, (22):12-15.
- 富樫一次・高順一郎(1992b) 焼畑の節足動物相(第2報) — モチアワ畑及びコウボビエ畑の昆虫相とクモ相 —. 石川県農業短期大学研究報告, (22):16-21.
- 富樫一次・高順一郎(1992c) 焼畑の節足動物相(第4報) — 小松市小原地区の焼畑の昆虫相とクモ相 —. 金沢大学日本海域研究所報告, (24):63-74.
- 富樫一次・高順一郎・中田勝之(1992) 焼畑の節足動物相(第3報) — 地表性ゴミムシ類について —. *New Entomol.*, 41(3, 4):59-62.
- 徳本洋・佐伯芳造(1998) ハエ目. 石川県の昆虫, 石川むしの会・百万石蝶談会 編. 306-338.
- Bharti, M. & Bharti, H. (2016) Association and impact of ectoparasitic blowflies (Diptera: Calliphoridae) on Himalayan ants of genus *Myrmica*. *Insectes Sociaux*, (63): 477-480.
- 村山茂樹(2007) ツマグロキンバエの産卵行動の記録. はなあぶ, (24): 57-58.
- Nishijima, H. (1967) Revision of the third stage larvae of synanthropic flies of Japan (Diptera: Anthomyiidae, Muscidae, Calliphoridae and Sarcophagidae). *Sanitary Zoology*, 18(2・3): 47-100.